

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課

担当課長名：斉藤 親

事業名：JR中央本線（三鷹駅～立川駅間） 連続立体交差事業	事業区分：街路	事業主体：東京都	
起終点：自：東京都三鷹市下連雀三丁目 至：東京都立川市錦町一丁目			延長：13.1km
事業概要：JR中央本線の三鷹駅から立川駅約13.1kmの区間及び西武多摩川線武蔵境駅付近約0.8kmの区間の鉄道を高架化することにより、18箇所の踏切道を解消し、都市計画道路9箇所（踏切道5箇所含む）の立体化を一挙に実現し、あわせて側道を整備する。			
H7年度事業化	H6年度都市計画決定（H14年度変更）	H7年度用地着手	H11年度工事着手
全体事業費：1,484億円		事業進捗率：19.8%	
踏切遮断交通量：104万台時/日		供用済延長：0km	
費用便益分析結果	B/C（事業全体）：1.1	総費用（事業全体）：1,187億円 事業費：1,187億円 維持管理費：億円	総便益（事業全体）：1,303億円 走行時間短縮便益：1,161億円 走行費用減少便益：96億円 交通事故減少便益：7億円 高架下利用便益：39億円
基準年：平成15年			
事業の効果等：踏切の除却により交通渋滞が解消される・踏切事故が無くなり道路と鉄道との安全性が向上する・鉄道による地域の分断が解消される・駅施設の利便性が向上する等			
関係する地方公共団体等の意見：立川市他の沿線23市が組織する三鷹・立川間立体化複々線促進協議会にて、事業の早期の完成を要望されている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等：多摩都市モノレールが平成10年11月27日に立川北駅から上北台駅間約16kmが開業し、多摩センター駅～立川北駅間は平成12年1月10日に開業している。			
事業の進捗状況、残事業の内容等：進捗 東側区間（三鷹～国分寺駅間）は、用地取得が完了し、平成13年度より仮線工事に全線着手しており、平成15年秋には仮上り線切替が行われた。西側区間（西国分寺～立川駅間）は、用地取得が平成14年度に概ね完了しており平成15年度当初から仮線工事が行われている。 残事業 東側・西側区間共、上下線の仮線への切替が完了後、速やかに本体高架橋工事に着手する。西武多摩川線（武蔵境駅付近）については、平成15年度当初より用地取得及び工事に着手する。 その他 高架化完了後、仮線路や仮駅を撤去し、平成22年度までに関連側道の整備を行う。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等：用地取得に日時を要したため仮線路敷設工事の着手が遅れ、事業期間が延長となった。現在、事業に必要な用地は、平成15年度に100%確保されたため、今後の事業の見通しは順調である。			
施設の構造や工法の変更等		耐震のため、構造を変更している	
対応方針：事業継続			
対応方針決定の理由：以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。			
事業概要図			

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。